

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム平和
（ユニット名）	第1・2ユニット
所在地 （県・市町村名）	静岡県清水区西久保1丁目13-26
記入者名 （管理者）	吉原正江
記入日	平成 20 年 11 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしていくために地域商店での買い物で食材を求めたり自治会活動に参加し回覧板を組合に配布する仕事を利用者と一緒にに行っている。又、地域S型デイサービスに通所している利用者もいる。認知症になっても介護を受けることで街中で暮らしていける理念を実践している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の残された能力を生かして生活を職員と共同で暮らしていくことを日々職員に伝えている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	S型デイサービスへの参加は、事前に家人に地域の老人たちとの交流の重要性を説明したが、家人も地域に交流していくことを理解している。又、S型デイサービスを主催している地域ボランティア、民生委員には、認知症を理解していただき受け入れていただける話し合いをしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩、買い物に出るため自然と顔見知りになり談笑している利用者もいる。ホームの近くに兄弟や自宅がある利用者は、気軽に兄弟、知人、友人が、尋ねてくる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し班長として利用者様と組合に回覧板を配ったり自治会費を集金している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域S型デイサービス開催時、ボランティアでお手伝いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、地域との関わりが不十分であったが、今年度は、自治会活動への参加、地域ボランティアの受け入れ、民生委員との関わりの中でホームの運営内容が、地域に浸透しつつある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での話し合いの結果や意見については、ミーティングで報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括ケアセンターが、今年度は、地域の中でも細分化され港北地域として袖師、横砂、西久保地域のボランティア、民生委員、サービス提供事業所が集まり地域で抱えている問題についての話し合いが行われている。問題解決にむけてそれぞれのおかれた立場から意見交換がされている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在地域福祉権利擁護事業を利用している利用者がいる。	○	入所前に権利擁護を利用している利用者について周囲が、制度利用を理解、受け入れてもらえず不安を抱えているので支援していけるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年 入所された利用者は、長男の妻から虐待されていた裏事情で入所してきた。1ヵ月後に長男の妻が、世間体から引きとりたいと退所の話があったが、ケアマネジャーと連携をとり入所続行となった。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談に関してはホームの運営内容、日常生活の利用者の様子介護の限界等の説明している。同意をいただいた上で入所になっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れており1カ月1回訪問していただき利用者の様子を報告していただいている。報告をうけたことは、ミーティングで職員たちに話している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1カ月の介護記録をコピーし家人宅に郵送している。又家人が、来所された際は、最近の様子をお話している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回評価を受けた家族アンケートでの家人からの意見については家族全員に文書で報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングや、朝の引継ぎ時等職員たちの意見を聞く機会は、多くある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夕食後の入浴を希望される利用者への対応するため職員の遅番時間を22:00までとしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設者が管理者であり変更はない。	○	離職については引き止める努力はしているが、職員にも問題がある。高収入を期待する人、運営方針を理解できない人、セクハラで離職勧告をせざるを得なかった人等である。人員不足や職場の不満については、引き続き適正な職員確保、職場の生の声を直に聞く姿勢は、続けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3年経過し重度化してきている中で勤務年数の長い職員達が、医療面での勉強会参加や災害時の救急法について学んでいる。又今年度からリーダー業務マニュアルの作成に取り組み試行錯誤しながらではあるが、リーダーとして育ちつつある。	○	今後は、常勤職員のリーダー数を増やせるよう責任と達成感が養えるような指導を行っていききたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議では、サービス提供事業者もあつまり事業所の特徴やサービス活動状況などの情報交換を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、現場に入り職員の生の声を聞くようにしている。今年度から週休2日体制でシフトを作成している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が、管理者であり現場に入り職員の状況についての把握に努めている。リーダー業務に従事した職員やミーテング、担当者会議の参加、欠勤者が出た場合の時間外労働については残業代を支払っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知が重度でコミュニケーション障害のある利用者様への対応については、行動や表情を観察しニーズを受け入れるように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談、利用者様との面談を行いニーズを聞き取り入所までは、十分な時間をとるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談にこられる利用者は、様々なサービスを利用され限界がきて入所相談に来られているのでそのときに必要な支援の見極め時期を過ぎている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家人の相談だけで入所を決定するのでなく利用者と一緒に見学に来所してもらい利用者の反応や意思確認をもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者の残存機能の維持・向上を図り利用者のできることが、達成できた時は、ともに喜び合える関係を築いている。例		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者のサービス提供内容や状況変化に対して管理者を通して家族に相談し理解をいただき家族とともに支えていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係を相談で得られた情報として各スタッフが、把握できるよう介護記録にファイルしたり引継ぎノートに記載し理解に努めている。主介護者である妻が、介護できなくなりキーパーソンである息子が入所手続きをして入ってきた利用者様に対し妻が介護できる時に家に帰れるよう外出支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お店をやっていた利用者様が、時々帰宅願望を訴える時は、帰宅できるように支援している。演芸をする利用者様の知人が、ホームでボランティア演芸を通して利用者様とのかわりを続けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の行動障害が、お互いの関係悪化にならないように職員が、調整している。(家事の分担や役割を持っていたいっている)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退所された利用者様の奥様が、毎日のようにホームに來所されていて家事(食後の食器洗い・台所の片付け)をお願いしている。時々職員と談笑され帰宅されている。イベントにもお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活習慣、身体機能等の把握をし利用者の意向に沿ったその人らしい暮らしを続けていけるよう努めている。本人が、自分の要望を人に伝えられるのが、困難な場合その人の表情や動作で把握し、その情報を職員間で共有し利用者と接している。(眠前の入浴、歩行困難だが、急に椅子からの立ち上がりが、ある場合等)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は、引継ぎノートに記載されていたり担当者会議で得ている。		細かい部分での情報や日々の変化で不明な点は、情報を得られるように心がけたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人ひとりの状態、変化などの把握ができるよう引きつぎチャートブックへの記載、口答での引き継ぎを行い各スタッフが、当日の介護に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回の担当者会議を開催している。利用者様も同席していただいている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な変化については、その場の職員や家人と連絡をとりながらサービスを変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記入していただいている。時に、状態悪化や変化に関しては、追加記録を作成し状態が安定するまで記録を詳細にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限りの柔軟な支援は、行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	S型デイサービスを利用することは、そこにかかわる民生委員やボランティアの方達にかかわることで外に向けて介護力をかりこを目的としている。時には保育園児や近隣に住む高齢者のボランティア達との交流もある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在介護保険外にデイサービスに出かけている利用者様や週1回他サービス事業所が行っている音楽療法を取り入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を受けている利用様がいますが、認知症が悪化しているので長期的にケアマネジャーと相談し今後の方向を家人に助言している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間緊急連絡体制をとっているかかりつけ医とは、往診時を問わず利用者様の状況については、連絡を密にとっていることで家人との調整役にもなり適切な医療を提供できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	妄想が行動化するすることで夜間の不眠や異常行動を緩和できるよう又内服治療が利用者様の日常生活に悪影響を及ぼさないよう受診に付き添い医師と相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師でありかかりつけ医の看護師と相談し健康管理や医療活用の支援を行っている。(予防注射・衛生材料購入についての相談等)		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	緊急に入院する場合は、家人に同行し主治医、担当看護師に情報を提供したり今後の見通しを聞いたり介護サマリーを添付したりしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師である管理者は、速やかに家族や医師と連絡を取り合っている。家族の要望や医師の指示については、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所、家族、医師との間で話し合いが、行われ管理者、職員間で共有している。少しの変化も担当者会議等で話し合氏間が設けられている。	○	話し合いの場が、設けられているので職員間でも積極的に意見交換をする。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開所以来、特養ホームに入所した利用者様に対し特養ホームの相談員と入所前に連携をとり情報を十分に伝えた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を頭上から話しかける出なく視線を同じにして話している。プライバシーについては、場所や声掛けに注意している。個人情報の取り扱いについては、事務所で管理され施錠されている。毎日の記録類については、棚の中や目の届きにくい場所の保管されている。銘々の介護記録には、他利用者様のお名前は、イニシャル。	○	1. 個人情報の徹底については、今まで以上に職員一人ひとり注意して行う。2. トイレ介助時にドアを開け放してやっているので注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	戸外への散歩、買い物の同行、家事仕事は、本人の意志決定を尊重して参加していただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活を進められる利用者様は、無に等しくホーム側のスケジュールに沿って進めていく中で一人ひとりに同意を得たりペースに合わせて散歩や体操を行っている。帰宅願望が、強く落ち着かない利用者様には、スタッフがついて外出している。	○	時には、時間や都合で職員本位に動いてしまうときもある。できるだけ希望に応じられるよう余裕ある時間づくりを心掛け出していることは、続けられるように努力していきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1. 出張床屋さんに2ヶ月に1回のペースで散髪をお願いしている。2. 起床時に自分で髪がブラッシング出来る利用者様は、鏡の前でブラシを渡して行っている。3. 起床時に洋服への更衣時準備は、職員が、やってもご本人に確認をとってから着ていただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや人気メニューを取り入れるようにしている。食事の支度については、声掛けを行い進んでやってくれる利用者にお手伝いしていただき無理強いはいしていない。	○	新しいメニューを取り入れていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ポカリスエットが大好きな利用者様には、毎回お出ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導時間は、決まっているが、排泄が確認できない場合は、他の時間での誘導を試みたりしている。パットやオムツ等の利用については、職員一人ひとりが、数量を減らせるよう心かけている。夜間のトイレ誘導については良眠が、最優先なので無理しいはしていないが、起こすことで失禁を防げる方は、誘導している。	○	入所されたばかりの利用者様の誘導がずれることが多く失敗が多いため検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとり曜日の取り決めはあるが、入所時に本人や家族の希望も取り入れている。希望される方には、対応できるようにしている。時間のタイミングは、希望に応じられるようにしている。拒否等のある利用者に関しては、対応法を話し合いスムーズに入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	テーブルで転寝してしまう利用者、一日車椅子乗車している利用者を休息する時間を設けて自室で休んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人と話すことが好きな利用者様を歩行困難になってもホームに閉じ込めることなくS型デイサービスに通所を介助している。地域のお年寄りが集まり楽しく過ごされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出しない利用者様が、日常品が欲しい要求があった場合は、買い物付き添いお金を本人に払ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天時は、買い物や散歩に積極的に出られる利用者様全員出でいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1. 地域活動への参加,S型デイサービスへの参加2. 家族との外出支援3. 施設主体のイベント(いちご狩り、遠足、バーベキュー)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用については、希望に応じて行っている。伝えきれないときは、支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、訪問者に対しスリッパを出し笑顔で挨拶を心がけ利用者様と話せる場を作っている。お茶の用意もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が伴う場合は、話し合いのもとでシルバーカー利用から車椅子で移動していただくような対応は行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族や知人、友人、地域の人たちが、気軽に出入りできるよう玄関は、施錠されていない。居室にも鍵はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	交代で業務に入る職員は、利用者様の日中、夜間の様子を引継ぎから情報を得ている。状態に変化のある利用者様に対しては対応法は、引継ぎ時に話し合いできめている。(熱のある利用者様、落ち着きなく外出希望のある利用者様、拒食、拒薬のある利用者様等)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様が必要であれば何時でも利用できるようにしている。特に紙ペーパーの場合持ち去りトイレに流されてしまうので職員管理しやすいようにケース内に収納されている。必要であればその場で利用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時は、その都度報告書に記載し毎月のミーティングや担当者会議で話し合い再発防止に向けての対応法を話し合っている。	○	事故防止に対しては、再事故を防ぐ対応法を話し合い周知してもらっているが、個々とり方にバラツキがあり徹底できないのが現状で徹底できるよう話し合いの継続が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応についてのマニュアル作成は、職員の手により作成されている。応急手当については、三角巾による方法を勉強会で行っている。	○	事故対応マニュアルが、作成されたので職員に周知され徹底されるようにしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年2回行うようにしている。地域の防災訓練にも参加し地域に浸透していくように働きかけている。	○	防災訓練については、1回に時間をかけられないため訓練回数を増やしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行困難であっても自分で動きたい意志を持つ利用者様の徘徊がひどく職員に声掛けされることで不穏になってしまう。ホームでは、拘束しない暮らしの中で介護に限界があることを説明している。拘束しない事故防止策を検討しているが、転倒した場合の緊急対応についても説明し家人より同意を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタルサインチェック、体重測定、体熱感や顔色の変化食事量、尿量、自覚症状の訴えの有無に対してその時点での対応についても引継がれている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別介護記録ファイルに内服中の薬の内容が、ファイルされている。利用者様の中には、多種類服用されている方もあり十分な理解には、いたっていない。	○	薬の名前や理解を深めるために内服目的、副作用の勉強をする場を再度作りたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	セミナー参加しスタッフに発表したこともあり周知されている。便秘のひどい利用者様に水分補給、食事形態を変える、水分が摂れるようにお茶以外にスポーツドリンク、カルピス、麦茶を嗜好品として飲んでいただいている。	○	便秘に対して対応を伝えてもおろそかになっていることもあり今後更に統一していくようにしたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの目的を職員は、周知している。毎食後口腔ケアは、徹底され不十分な利用者様へは、支援が行われている。(綿棒付ブラシ、電動歯ブラシ、歯間ブラシ)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に個々の活動量に合わせて食事量と食事の形態を検討し提供している。特に食事、おやつ時には、水分を全量摂れるよう声掛け、介助にあたっている。水分量は、1日1000～1500ミリリットルが目安である。	○	排泄確認表を利用し食事、おやつ以外にも起床時、外出帰室時、入浴後も水分補給を徹底していきたい。特に訴えない水分補給が自力で出来ない利用者様に対しては、注意していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、毎年職員、利用者全員に予防注射を徹底している。流行時期は、外出を控え家人にお便りを出し風邪ぎみの面会者をお断りしている。利用者に対して外出から帰室後、食事、おやつ前、トイレ後等にアルコールでの手指消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、当日買い求めて使いきるようにしている。鮮魚、肉類は、当日購入し冷蔵庫チルドルームに保管している。食器拭きに使った布巾類は、ハイター消毒 20分を行っている。ザル、まな板類は、使用後日光消毒、使用済み食器類は、熱湯を掛けて洗い流している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は、人が行き来できる通り沿いにそっており玄関も好天時は、開放されていて外部者が入りやすいようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓の設置により光を確保、強い日光が当たるときは、ブラインドを職員が、リモコン操作で行っている。中庭には、落葉樹が植えられ現在紅葉していることで季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには、テーブル席のほかにソファークッションや2人かけのソファがあり外を見ながら一人で横になっていた利用利用者どおしで談笑している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員とは、いえないが、入所時本人と家人が決めて持ち込んでいる家具や荷物類がある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には、換気口がついており外から綺麗な空気を入れたりトイレの換気口から汚れた空気を出すようにして24時間換気に努めている。冬は、床暖房を外気温の低下する時間帯にかけて日中は、暖気で過ごしている。この期間は、窓の開閉は、清掃時、午後の洗濯の取り込み時に空けるくらいにして暖気が逃げないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内や廊下に手すりを設置、特にトイレは、車椅子を利用して自分でトイレが出来るよう手すりの設置の高さに気を配った。更に職員が、要所要所で利用者の行動を見守り安全確認を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の見当職のない利用者様がよく入り込んでしまう居室に自室を移したことで混乱なく自室に自分から行きベッドで休んだりくつろいだりしている。ハンガーパイプにかかっているジャケットを自分から羽おってフロアーに出てくことも出来るようになった。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内には、花壇に花を植えて水撒きや鑑賞が出来るようにしている。	○	普段生活している所からも見える中庭に季節の花を植えて目で楽しめるようにしたい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 一日の食材は、近隣商店を利用し職員、利用者とお店で食材を選び購入している。 2. 自治会活動への参加として班長として利用者と職員で隣組に回覧板の配布、自治会費の集金を行っている。 3. S型デイサービスに参加し近隣のお年寄りとの交流やボランティア、民生委員との関係を深めている。